

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH152
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 1
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「骨折とは？」について学習する総論に対して、本科目は各論である。 鎖骨・肩甲骨・上腕骨の骨折について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	全国柔道整復学校協会の教科書委員を7年間つとめてきた経験を活かして、各部位の骨折について理論的に講義する。 同時に、整形外科の勤務経験と整骨院院長としての経験を活かして、臨床現場に活かせる知識と技術を教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 国家試験出題基準の本科目該当範囲において、基礎を固めて応用力を高め、合格の基準に達するのと同時に、臨床現場で必要となる能力を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス 鎖骨骨折（特徴・発生機序など） 第2回 鎖骨骨折（転位・症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第3回 肩甲骨の骨折（特徴・分類） -肩甲骨骨体部骨折および上・下角骨折 -関節窩骨折 第4回 肩甲骨の骨折 -頸部骨折 -肩峰骨折 -烏口突起骨折 第5回 上腕骨近位部の骨折 -骨頭骨折 -解剖頸骨折 -外科頸骨折（特徴・発生機序など） 第6回 上腕骨近位部の骨折 -外科頸骨折（症状・整復法など） 第7回 上腕骨近位部の骨折 -外科頸骨折（固定法・後療法・合併症など） -大結節単独骨折（特徴・発生機序など）

計画・内容	<p>第8回 上腕骨近位部の骨折 -大結節単独骨折（治療など） -小結節単独骨折 -近位骨端線離開 上腕骨骨幹部骨折（特徴・発生機序・症状など）</p> <p>第9回 上腕骨骨幹部骨折（整復法・固定法・後療法・合併症・予後など）</p> <p>第10回 肘関節の構造 上腕骨遠位部の骨折</p> <p>第11回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（特徴・発生機序・骨折線と骨片転位・症状・整復法など）</p> <p>第12回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（整復法・固定法など）</p> <p>第13回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（固定法・後療法・合併症など）</p> <p>第14回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨外顆骨折（特徴・発生機序・骨折線と骨片転位・症状・整復法など）</p> <p>第15回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨外顆骨折（整復法・固定法・後遺症など） -上腕骨内側上顆骨折</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使用した授業形式で講義を行う。 ・ワークブック形式のプリントを配布して活用する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・参加型の講義とするため発言による授業内でのフィードバックを行い理解力を深める。
授業時間外の学修	<p>予習：講義予定の内容を確認し、教科書の当該箇所を熟読して、ワークブック形式のプリントのカッコ内をうめておく。</p> <p>復習：配布プリントをもとに自分の講義ノートを整理する。 （合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」南江堂</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート：20% ・期末試験：80% <p>期末試験の受験資格は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。</p> <p>上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<p>学ぶことは楽しいことです。 未知のことがらの発見から、知的好奇心を育て、考える能力を身につけましょう。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>Zoomによるオンライン授業 課題レポート：20%、試験日が非対面となった場合は、オンライン試験を実施：80% 試験の受験資格は、対面授業とオンライン授業の実施数の2/3以上出席している者とする。</p> <p>上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。</p>